

学位論文

「Impact of mothers' parental bonding experience on emotional  
availability (EA) with their children」

(母親の被養育体験が子どもとの情緒応答性 (EA)  
に与える影響)

DM17031 三浦 雅子

北里大学大学院医療系研究科博士課程  
医療人間科学群 発達精神医学  
指導教授 生地 新

## 著者の宣言

本学位論文は、著者の責任において実験を遂行し、得られた真実の結果に基づいて正確に作成したものに相違ないことをここに宣言する。

## 要 旨

多くの研究で、不適切な養育行動の背景要因として、母親の被養育体験が影響していることが明らかになっている。本研究では、現在、乳幼児を育てている母親自身の被養育体験が現在の自分と子どもとの間の情緒応答性（Emotional Availability: EA）にどのように影響しているかを明らかにすることを目的とした。被養育体験については、半構造化面接と質的研究法である KJ 法を用いて分析した。KJ 法により被養育体験は、【stable parenting】と【ambivalent parenting】および【unstable parenting】に分けられた。母親とその子どもとの間の EA については、母子の様子を撮影したビデオ記録について、情緒応答性尺度（Emotional Availability Scale: EAS）を用いて評価した。その結果、high EA および medium EA に分けられた。被養育体験が【stable parenting】であった 5 組では、全組が high EA であった。【ambivalent parenting】だった 4 組の中では、medium EA が 1 組、認められた。被養育体験が【unstable parenting】であった 7 組では、high EA が 3 組、medium EA が 4 組、認められた。本研究の結果から、被養育体験が安定していると自分の子どもに対する EA も多くの場合、高くなることが示された。母親自身の被養育体験がその母親と子どもの EA に対してどのような影響を与えているのかを明らかにした研究は多くはない。この点で、本研究は、被養育体験と世代間連鎖の理解に寄与するものと考えられる。

## 目 次

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| 1. 序論                            | 1   |
| 2. 方法                            |     |
| 2-1. 対象者                         | 2   |
| 2-2. 手順                          | 2   |
| 2-3. 評価の方法                       | 2   |
| 2-4. 統計解析について                    | 4   |
| 2-5. 倫理的配慮について                   | 4   |
| 3. 結果                            |     |
| 3-1. 対象者の基本属性                    | 5   |
| 3-2. 半構造化インタビュー                  | 5   |
| 3-3. KJ 法による被養育体験に関するインタビュー内容の統合 | 5   |
| 3-4. 母親の被養育体験と EAS の関連性          | 7   |
| 3-5. EPDS の評価                    | 7   |
| 4. 考察                            |     |
| 4-1. 母親が語る被養育体験について              | 8   |
| 4-2. 母親の被養育体験と EAS の関連性について      | 8   |
| 4-3. EPDS の評価について                | 9   |
| 5. 研究の限界と今後の課題                   | 9   |
| 6. 総括                            | 9   |
| 7. 謝辞                            | 9   |
| 8. 引用文献                          | 10  |
| (9. 図表                           | 14) |



## 1. 序論

「虐待などの不適切な養育により愛着障害や心的外傷を抱えた人は、後年、親になって自分の子どもとの関係に影響を与える」という世代間連鎖については、数多くの研究報告がある<sup>1-4)</sup>。Cicchetti ら（2006）は、一歳児に対して不適切な養育が認められる母親 137 名と、そうではない統制群の母親 52 名とを対象とした研究において、不適切養育群の母親は統制群の母親に比べて、子ども時代に自分自身も実親からの不適切な養育を経験していたことが有意に多く、子ども時代の自分自身の母親に対しては「拒否」「放置」「脅威的」というイメージを強く持ち、現在も「怒り」の感情を抱いていることを報告している<sup>2)</sup>。また、多くの研究で、不適切な養育行動の背景要因として、被養育体験が影響していることが明らかになっている<sup>4),5)</sup>。一方で、被虐待体験があっても自分が母親になることに対して肯定的感情を持っている女性は、子どもとの関係についての問題や養育ストレスをさほど感じることはなく、被虐待体験が直線的に養育行動や親子の関係性に否定的影響を及ぼすとは言えないことを示唆する研究も報告されている<sup>3),6)</sup>。

児童虐待やネグレクトにつながっていく親-乳幼児関係上の困難の背景には、親側の養育上の知識やスキルの不足があるだけでなく、養育者側の被養育体験に関連する情緒的交流の能力の問題があると考えられている<sup>2)</sup>。

親自身の被養育体験が自分と子どもとの関係性に影響することを実証するためには、現在の親子の関係性の評価が必要だが、質問紙による評価は客観性という点で弱みがある。客観性のある親子の関係性の評価方法の一つに Emotional Availability Scale<sup>7)</sup>（以下 EAS）がある。Emotional Availability<sup>8)</sup>（以下 EA）は、主として非言語的な情緒表出を手がかりとして行われる親子双方の情緒的コミュニケーションの能力を意味している。EAS は、EA をビデオ記録で客観的に評価する方法で、親自身の被養育体験が現在の親子の関係性に与える影響を検証する研究において有用なツールとなると考えられる。これまで、母親自身の子ども時代の被養育体験がその母親の現在の親子の関係性に与える影響を客観的に評価して検証した研究は多くはない。本研究は、子育て中の日本人の母親自身の被養育体験がその母親と子どもとの EA に対してどのような影響を与えているのかを明らかにし、世代間連鎖の研究をさらに発展させることをねらったものである。

## 2. 方法

### 2-1. 対象者

対象者は、千葉市に在住する母子で、千葉市の保育園と子育て支援センターの利用者である。生後4か月から1歳6か月までの子どもとその母親を対象とした。

### 2-2. 手順

対象者は、同施設内にある保育園と子育て支援センターそれぞれ1か所でポスターにより募集した。その結果、16名の母親が研究に参加することに文章で同意した。期間は、2019年6月から2020年2月である。以下の手順で調査を実施した。

- (1) 保育施設と子育て支援センターの掲示板にポスターを掲示した。
- (2) 研究参加を希望し、研究の参加に同意した母親とその子どもについて、調査を実施する日時を決めた。
- (3) 調査
  - ①ビデオ撮影の実施：EAの評価のためのビデオ撮影を行った。
  - ②半構造化面接：インタビューガイドに沿った半構造化面接を実施し、内容はボイスレコーダーで録音した。
  - ③質問紙の回答：Edinburgh Postnatal Depression Scale<sup>9)</sup>（以下 EPDS）を母親に対して、約10分前後にわたり実施した。
- (4) 調査後、ビデオ記録のEASを用いた評価を、EASの基礎的訓練を受けた研究者1名を含む研究者2名で行った。

### 2-3. 評価の方法

#### 半構造化インタビュー

インタビュー内容はICレコーダーに録音して逐語録に起こした。被養育体験については、母親からどのように育てられてきたか、母親に対してどのように感じているか、についてである。

#### KJ法について

インタビューによって得られた、対象者の被養育体験に該当するデータを、質的研究法であるKJ法<sup>10)</sup>に準拠して統合した。KJ法は以下の手順で行った。

まず、インタビューの逐語録をそれぞれ、同意味の文脈単位にまとめ、ラベル化した。次に、ラベル化した語り全体を見渡し、ラベル同士をセットにした。そして、集まったラベルのセットを1つのグループとして束ね、「グループ編成」をした。このようなグループ編成の作業を、最終的に2~4つのグループになるまで繰り返し行った。最終的にできたグループの表札を「最終表札」という。最終表札がつけられているグループを「シンボルマーク」とし、データを図解化した。

本研究では、逐語記録の作成は1名の研究者が行い、KJ法は2名の研究者で協議し、2

名のコンセンサスに基づいて分析を行った。KJ 法を行った筆者は 2019 年 11 月に KJ 法本部・川喜多研究所認定の株式会社エバーフィールドの研修を修了している。なお、分析過程において、KJ 法の専門家から継続的に指導を受けた。

### KJ 法による対象者ごとのインタビュー内容の統合

インタビュー内容をそれぞれの対象者ごとに統合するため、語られた内容を対象者ごとに KJ 法を用いて統合した。その結果は、2 から 3 のカテゴリー（最終表札）に統合された。

### KJ 法による全対象者のインタビュー内容の統合

全対象者のインタビュー内容の全体的な統合を行った。KJ 法の手順は、はじめの「ラベルづくり」において、各対象者の逐語録からラベルを作成するのではなく、対象者ごとの KJ 法によって得られたグループの最終表札をラベルとして用いて、そこから対象者ごとの KJ 法と同じ手続きで全対象者についてグループに統合し表札をつける作業を行った。

### EAS について

EA は、主として、非言語的な情緒表出を手がかりとして行われる親子双方の情緒的コミュニケーション能力を意味している。大人と子どもは、お互いに、相手の情緒を読み取り、それに応じた行動をとる。そのような相互関係の中で、関わり合い、親密さを深め、子どもは成長していく。このような相互交流を可能にする大人と子どもの能力を EA と呼ぶ<sup>8)</sup>。そのため、大人がいかに子どもの感情のシグナルを拾い上げるかだけでなく、大人が自分の感情を発信するかも重要となる。子どもの大人への反応は、発達年齢において適切な探索行動がとれていること、および応答的なやり方で大人に反応できることなどが関係していると言われている<sup>7)</sup>。Emde は、EA によって大人と子どもの双方が多様な情緒を表出することは、正常な行動発達を示すものであるとしている<sup>8)</sup>。

EAS は、Emde のもとで研究していた Biringen が開発した大人と子どもの EA の評価法<sup>11)</sup>であり、信頼性と妥当性が報告されている。EAS の尺度構成は、大人から子どもに向けた EA 4 次元、子どもから大人に向けた EA 2 次元、合わせて 6 つの次元からなる。大人の EA の次元は、「大人における感受性」「大人の構造化」「大人の侵入的でないこと」「大人に敵意がないこと」の 4 つであり、子どもの EA の次元は「子どもの大人への反応性」および「子どもの大人への関わり合い」の 2 つであり、大人と子どもの肯定的側面も評価できる。また、ネグレクトや虐待の評価にも役立つと報告されている<sup>7)</sup>。

EA の評価法である EAS は、大人と子どもとが遊んだり、会話をしたりして過ごす様子を少なくとも 20 分間の観察をして、両者の EA を評価することが推奨される。本研究では、Biringen<sup>11)</sup>の方法に従い、20～30 分の時間で、ビデオ録画した。EA の評価としては、主として EA の総合的な評価尺度である Clinical Screener の得点を用いた<sup>12)</sup>。得点内容は、Table 1 に示す。本研究で評定されたケースの Clinical Screener の最高得点は 98 点、最低得点が 60 点であり、90 点以上を high EA、60-89 点を medium EA とした。



## EPDS について

産後のうつ状態を定量的に評価する目的のために作成された自己評価票であり、10 項目から構成されている。各項目の4段階の番号（0, 1, 2, 3）は配点で、最低が0点、最高は30点となる。日本では産後うつ病の判断基準である区分点を9点以上としている<sup>9)</sup>。EPDSは産後うつ病のスクリーニングを目的としているが、妊娠前期から産後1年以上の期間のスクリーニングツールとしての有用性も報告され、産後18か月まではうつ病の重症度が高い期間であるとする報告<sup>13)</sup>もある。EPDSで推測される産後うつ病は愛着障がいとも関連があることが明らかにされており、児童虐待のスクリーニング指標としても効果を期待されている。我が国では3歳くらいまでの子どもを持つ母親までに適用されている<sup>14)</sup>。

本研究の対象者は、生後4か月から1歳6か月までの子どもを育てている母親であるため、うつ状態の把握と児童虐待のスクリーニングの目的でEPDSを用いた。

## 2-4. 統計解析について

統計解析には Statistical Package for the Social Science Version 21.0（SPSS, Inc., Chicago, Illinois, USA）を用いた。

## 2-5. 倫理的配慮について

研究説明は、対面にて文書と口頭で行った。回答しにくい質問には回答しなくてよいこと、研究途中での参加撤回も可能であることを伝えた。インタビューは、プライバシーが守られる研究施設内の個室で行った。本研究は、北里大学医療衛生学部研究倫理審査委員会の承認を得て行った（受付番号：2019-02）。

### 3. 結果

#### 3-1. 対象者の基本属性

対象者の概要を Table 2 に示す。

子どもの年齢は 4 か月から 1 歳 6 か月（平均 7 か月）までの間に分布し、母親の年齢は 27 歳から 39 歳（平均 33.4 歳）までの間に分布していた。子どもの性別は、女兒 6 名（40%）、男児 10 名（60%）であった。子どもの出生順位は、第 1 子が 7 名、第 2 子が 7 名、第 3 子 2 名であった。家族構成としては、夫婦と子どもの核家族が 15 組、夫方の祖父母と同居している拡大家族が 1 組であった。また職業を持っている母親は 13 名（常勤者 9 名、非常勤 4 名）、職業を持たない母親は 3 名であった。

#### 3-2. 半構造化インタビュー

インタビュー時間は 42 分～67 分であった。

#### 3-3. KJ 法による被養育体験に関するインタビュー内容の統合

以下【】はシンボルマークを、《》はそれぞれのシンボルマークが示すグループを構成するカテゴリ一名を示している。

KJ 法に基づく被養育体験に関するインタビュー内容を統合した結果を Figure 1 に示す。KJ 法によって抽出された母親の被養育体験についての語りの 3 グループにつけられたシンボルマークは【stable parenting】【ambivalent parenting】【unstable parenting】であった。KJ 法によって統合された母親が語る被養育体験の多くは、中心となっているシンボルマークの語りだけではなく、他のシンボルマークの語りも含んでいることが多かった。各対象者がそれぞれ、どのグループの内容を中心に語ったのかについて、Table 3 に示す。Table 3 にある◎は、語りの中心になっているシンボルマーク、○は、語りの中に含まれているシンボルマークを示している。

KJ 法の結果に基づいた母親の被養育体験の分類は、【stable parenting】一貫して母親が自分を支えてくれたと感じている群、【ambivalent parenting】母親の養育について両価的で複雑な思いを感じている群、【unstable parenting】母親の養育を回避的、あるいは厳しく過干渉的と感じ、不信感を持っている群の 3 群に分類された。

##### 【stable parenting】を中心に語ったケースの特徴

【stable parenting】は、《完璧を求めない子育て》《母への思い》の 2 つのカテゴリから構成されている。安定した母親との関係を中心に話したケースは、全体の約半数であった。幼い頃から上下関係ではなく対等に育てられたケース（Case 2）や母子ともにリラックスした生活だった、という語り（Cases 1, 2）もあった。反抗期を受け止めてくれた母親の存在を現在も心の軸にしている（Case 1）や、子育てを通してより母親への感謝の気持ちが生じたというケース（Cases 1, 5, 9, 12）もあった。【stable parenting】を中心に語ったケースの特徴として、母子関係が対等であり、互いに自然体でありのままの存在を受け入れていることが窺えた。自分自身の母親の養育について、完璧を求めない子育てと認識し、被養育体験を愛された経験として位置づけていた。母親は自分がど

のような状態であっても受け入れてくれる存在であり、平等な養育を基本とした安心感のある養育であったと認識していた。また、自分を育ててくれた母親へ育ててくれたことへの感謝の気持ちを示していた。つまり、母親が支持的で応答的である場合、子どもは母親を安定した存在として位置づけ、さらに、自分自身を尊重し、愛される存在として位置づけることが可能になることが明らかになった。

### 【ambivalent parenting】を中心に語ったケースの特徴

【ambivalent parenting】は、《複雑な母への思い》《母という役割以外の母の存在》の2つのカテゴリーから構成されている。習い事ややりたいことに対する選択の自由度が高く良かったと思っていたが、よく考えてみると、放任だったのではないかと語ったケース（Cases 7, 9, 11, 15）があった。また、きょうだい間の育てられ方の差は仕方がないと思っていたが、やはり不公平だったのではないかと語るケース（Cases 8, 11）があった。一方で、母親の不在はさみしかったが、仕事をこなす母親への尊敬（Cases 2, 3, 4, 16）を語るケース、両親に育ててもらうことはできなかったが、母親の離婚への決断に強い意思を感じた、社会適応していく姿は母親としての役割以外の存在を感じることができたというケースがあった（Cases 9, 15）。また、母親の理不尽な厳しさについて、母親自身も完璧な人間ではないと理解できるようになったと語るケースもあった（Cases 13, 15）。

【ambivalent parenting】を中心に語ったケースの中には、母親に対する表面的な理想化と葛藤の感情等を示していたものがあった。しかし、母親不在の寂しさを語る一方で、母親の決断力や社会参加の姿を肯定的に捉えているケースもあった。【ambivalent parenting】を中心に語ったケースは、様々な角度から自らの被養育体験を捉えることができる部分と、いまだに統合した形で整理できていない部分の両側面を持ち合わせ、応答的であった母親の養育と非応答的であった母親の養育の間で揺れ動いた感情を持っていることが推測されたが、多くのケースは母親が完璧な存在ではないと理解しており、両価的な側面を持つ母親を受け入れ、尊重していた。

### 【unstable parenting】を中心に語ったケースの特徴

【unstable parenting】は、《完璧を求める母》《母への気遣い》《厳しい養育への不信感》の3つのカテゴリーから構成されている。両親の離婚や父親が単身赴任であったこと、父親の仕事が忙しかったこと、周囲にサポートがなかったことなどから母親は孤立した子育てだったというケース（Cases 6, 14, 15）があった。また、母親が不在の生活（Cases 6, 10, 15）、常に厳しい母親の言動による子育て（Cases 8, 10, 11, 16）、理由もわからずに怒られていたと語るケース（Cases 8, 10, 11, 14）があった。さらに、家庭の事情から精神的にも経済的にも母親を支えるケース（Case 14）や母親の機嫌で、食事を与えてもらえなかったケース（Case 10）、母親の怒りの爆発に怯えていたケース（Cases 10, 11）、母親への怒りが未だに残っている（Cases 6, 8, 10, 14）などがあった。【unstable parenting】を中心に語ったケースの特徴として、常に緊張感のある生活を強いられてきたことや、親との役割逆転、放任、拒絶、情緒的な巻き込み等の養育が生じていたことが窺えた。母親からの養育は、回避的な養育と過干渉的な養育が混在していた。母親の養育状況や母親の状態に応じて、子どもなりに母親へ気遣い、役割の逆転が生じていた。また、厳しい養育が繰り返される中での母



親に対する不信感が示された。さらに、現在も怒りや葛藤を抱え、自らの被養育体験を受け入れられていない場合もあることが明らかになった。

### 3-4. 母親の被養育体験と EAS の関連性

#### 母親の被養育体験と EAS

母親の被養育体験と EAS との関連性については Table 4 に示す。

【stable parenting】 high EA は 5 組、【stable parenting】 medium EA は 0 組であった。次に、【ambivalent parenting】 high EA は 3 組、【ambivalent parenting】 medium EA は、1 組であった。さらに、【unstable parenting】 high EA は 3 組、【unstable parenting】 medium EA は 4 組であった。

#### ビデオ録画による母子の EA 評価

母親の被養育体験が【stable parenting】の場合、母親と子どもの両者の楽しむ姿がみられた。互いに情緒を感じ取り、それに応じるという相互作用がみられた。子どもは適切な反応性を示し、探索的な行動をとっていた (Cases 1, 2, 5, 9, 12)。母親と子どもとのあいだの情緒交流は大部分で肯定的で適切である関係として評価できた。母親の被養育体験が【ambivalent parenting】で high EA の場合も、母親は子どもに支持的で応答的であり、子どもも母親からの遊びの誘いに対して受容的で、十分な EA を表出しており、安定的であると評価できた。一方で、少数の medium EA のケースも存在しており、母親が子どもとのやりとりの中でやや回避的な行動を見せる場面があった。また、子どもは満たされない思いを攻撃的な行動で表現しており、主体性をとることが難しかった (Case 4)。母親の被養育体験が【unstable parenting】で、high EA だった場合、EA は全般的に安定し、母親と子どもとの間で十分な相互作用が行われていた (Cases 8, 14)。しかし、medium EA の場合、母親の子どもへの語りかけは少なく子どもの遊びを遮る場面もあった (Cases 6, 11)。また、子どもの反応性、主体性は共に十分にみられず (Cases 16, 17)、不十分な相互作用が示された。

#### 統計解析

母親の被養育体験を 3 分類に分け、被養育体験の各グループにおける EAS の母平均に違いがあるかについて、一要因の分散分析を行った。Table 5 にその結果を示すが、有意差は認められなかった。

### 3-5. EPDS の評価

対象者は 4 か月から 1 歳 6 か月の子どもを育てている 16 名の母親であり、全員がカットオフポイントよりも低く、明らかうつ状態を疑わせるケースはいなかった。EPDS は日本語版産後うつ病評価基準に従い、9 点以上を陽性とした<sup>9)</sup>。

## 4. 考察

### 4-1. 母親が語る被養育体験について

KJ 法によって統合された母親が語る被養育体験は、positive や negative といった対極の性質で単純に二分されるものではないことが示唆された。多くの母親は自分自身の被養育体験について多様な視点から捉えていた。先行研究では、AAI による成人の愛着表象を、autonomous、dismissing or disoriented、preoccupied、unresolved を含めて 4 類型に分類している<sup>15)</sup>。本研究の【stable parenting】は autonomous、【ambivalent parenting】は dismissing or disoriented、preoccupied、【unstable parenting】は unresolved に該当すると考えられた。

### 4-2. 母親の被養育体験と EAS の関連性について

母親の被養育体験が【stable parenting】であった場合、母親と子どもとの EA も全般的に安定し、一貫したものになりやすいことが窺えた。AAI を用いた研究において自律・安定型の母親の子どもが母親との相互作用や情動制御において positive な傾向が高いことが実証されている<sup>16)</sup>。

本研究においては、母親の被養育体験が【ambivalent parenting】だった場合においても、母親と子どもとの EA は多くの場合、安定し、一貫したものとなっていた。

一方で、母親の被養育体験が【ambivalent parenting】で、medium EA だったケースも存在しており、母親が被養育体験を【ambivalent parenting】に捉えている場合は、母親の回避性や子どもの攻撃性など子育て中の問題につながる可能性も示唆された。

母親の被養育体験が【unstable parenting】である場合、母親は子どもとの相互作用の中で、十分な EA を示さず、子どもとのやりとりが回避的であった。数井ら（2000）は、50 組の母親と幼児を対象とした研究において、母親には成人愛着面接（AAI）を用いて愛着表象を評価し、子どもには愛着 Q セット法（AQS）を用いて愛着行動を測定した結果、未解決型の母親の子は、その得点が低いと報告している<sup>17)</sup>。ただ、母親が【unstable parenting】な被養育体験を有する場合でも、安定した養育行動や EA を有しているケースも存在していた。この結果は、Egeland らの結果<sup>3)</sup>を支持したといえる。この点については、母親の被養育体験が【unstable parenting】で、母親からの否定的影響があったとしても、母親以外のあたたかな存在と新たな関係性をもつことができていることが推察される。結果として、自分の子どもとの関係においても適切な EA を示すことができるのかもしれないことが推測される。よって、ハイリスクな家庭の把握においては、被養育体験が直線的に現在の親子関係に影響するとは限らない場合も想定されることを理解しつつ、慎重な対応が求められる可能性がある。

一方で、先行研究において世代間連鎖と EA の関連が報告<sup>18),19)</sup>されているように、本研究においても、被養育体験が安定していると、EA が高くなることが示され、母親の被養育体験により現在の子どもの親子関係に影響するという傾向は示された。しかし、統計的には、被養育体験と EA の相関はみられていない。この差が有意でなかったのは、サンプルサイズの問題である可能性がある。本研究の結果から、母親の被養育体験を確認するこ



とで、親子関係における傾向としての EA を予測することはできるかもしれない。同時に被養育体験の捉え方には変化や揺らぎがあることも考えられるため、母親一人ひとりに寄り添った子育て支援をすることが必要である。

#### 4-3. EPDS の評価について

先行研究では、母親の精神状態の悪化や抑うつの有無と EA の相関についても報告<sup>20)</sup>されている。母親の抑うつ状態が認められると、EA が低くなるという報告<sup>21),22)</sup>があるが、本研究においても、全員、抑うつ状態は示されず、EA は medium 以上で先行研究に矛盾しない。

### 5. 研究の限界と今後の課題

本研究は、サンプルサイズが小さく、1 施設だけのデータであるという限界がある。今後は多施設共同研究を行い、サンプル数も増やすことが望まれる。また、先行研究<sup>23-26)</sup>では、薬物使用の有無や経済的問題と EA の関連についての報告があるが、本研究ではその点について把握しなかった為、今後の研究においてはその点を把握し、さらに、母親の年齢や子どもの性差、母親の職業の有無、家族構成等の影響についても検討した上で、被養育体験と EA の因果関係を検証していく必要がある。

### 6. 総括

本研究は、母親自身の被養育体験がその母親の現在の養育行動や EA に与える影響を被養育体験についての半構造化面接と EAS による母子関係の評価を用いて検証した。被養育体験が安定していると、自分の子どもに対する EA も高いことが示された。一方で、母親の被養育体験は子育て中の問題につながる可能性も示唆され、被養育体験が不安定な場合には、EA が低くなる可能性も示された。

EA は子育てをしている中でも変化する可能性があり、縦断的に実施していく必要性もある。親子の関係性は最初から完璧を実現することは難しい場合も考えられるからである。その点を踏まえた上で、EAS の評価を用いた育児支援方法への展開も視野に入れて、母子へのフォローアップを検討していくことが必要である。

### 7. 謝辞

本論文の執筆にあたり、ご指導を賜りました、北里大学大学院医療系研究科の生地新教授に深く感謝いたします。

そして、本研究の被検者として協力してくださった皆様や千葉市保育園、子育て支援センターのスタッフの皆様に感謝いたします。

## 8. 引用文献

- 1) Belsky J, Conger R, Capaldi DM. The intergenerational transmission of parenting: Introduction to the special section. *Developmental Psychology* 2009; 45:1201-4.
- 2) Cicchetti D, Rogosch FA, Toth SL. Fostering secure attachment in infants in maltreating families through preventive interventions. *Development and Psychopathology* 2006; 18:623-49.
- 3) Egeland B, Jacobvitz D, Sroufe LA. Breaking the cycle of abuse. *Child Development* 1988; 59:1080-8.
- 4) Pears KC, Capaldi DM. Intergenerational transmission of abuse: A two generational prospective study of an at-risk sample. *Child Abuse & Neglect* 2001; 25:1439-61.
- 5) Crowell JA, Feldman SS. Mother's internal models of relationships and children's behavioral and developmental status in mother-child interaction. *Child Development* 1988; 59:1273-85.
- 6) Main M, Goldwyn R. Predicting rejection of her infant from mother's representation of her own experience: Implications for the abused-abusing intergenerational cycle. *Child Abuse & Neglect* 1984; 8:203-17.
- 7) Biringen Z, Derscheid D, Vliegen N, Closson L, Easterbrooks MA. Emotional availability (EA): Theoretical background, empirical research using the EA Scales, and clinical applications. *Developmental Review* 2014; 34:114-67.
- 8) Emde RN. Emotional availability: Critical questions and research horizons. *Development and Psychopathology* 2012; 24:125-30.

- 9) Okano T, Murata M, Masuji F, Tamaki R, Nomura J, Miyaoka H, Kitamura T. Validation and reliability of Japanese version of Edinburg postnatal depression scale (EPDS). *Archives of psychiatric diagnostics and clinical evaluation* 1996; 7(4):525-33 (in Japanese).
- 10) Jiro Kawakita: Abduction. Chuou-kouron: Tokyo; 1967.p.65-114 (in Japanese).
- 11) Biringen Z, Easterbrooks MA. Emotional availability: Concept, research, and window on developmental psychopathology. *Development and Psychopathology* 2012; 24:1-8.
- 12) Biringen Z. The EA Professionals and Parent Curriculum. 2008. Available at:  
<http://www.emotionalavailability.com> And The Emotional Availability Scales, 4th ed.
- 13) Monti F, Agostini F, Marano G, Lupi F. The course of maternal depressive symptomatology during the first 18 months postpartum in an Italian sample. *Arch Womens Ment Health* 2008; 1(11):231-8.
- 14) Sato Y, Endo K, Sato S. A study on the effects of maternal trait anxiety, depressive tendency, and attachment to the child on maternal tendency toward child abuse — From issuance of maternal and child health handbook to 3-year-old infant health checkups examination —. *Japan Society of Nursing Research* 2013; 36(2):13-21 (in Japanese).
- 15) Main M, Kaplan N, Cassidy J. Security in Infancy, Childhood and adulthood: A move to the level of representation. *Monographs of the Society for Research in Child Development* 1985; 50:66-104.
- 16) Fonagy P, Steele H, Steele M. Maternal representations of attachment during pregnancy predict the organization of infant-mother attachment at one year of age. *Child Development* 1991; 62:891-905.

- 17) Kazui M, Endo T, Tanaka A, Sakagami H, Suganuma M. Intergenerational transmission of attachment: Japanese mother-child dyads. *Japanese of educational psychology* 2000; 48:323-32 (in Japanese).
- 18) Biringen Z, Matheny A, Bretherton I, Renouf A, Sherman M. Maternal representation of the self as parent: Connections with maternal sensitivity and maternal structuring. *Attachment & Human Development* 2000; 2(2):218-32.
- 19) Biringen Z, Brown D, Donaldson L, Green S, Krcmarik S, Lovas G. Adult Attachment Interview: linkages with dimensions of emotional availability for mothers and their pre-kindergarteners. *Attachment and Human Development* 2000; 2:188-202.
- 20) Lok SM, McMahon CA. Mothers' thoughts about their children: Links between mind-mindedness and emotional availability. *British Journal of Developmental Psychology* 2006; 24:477-88.
- 21) Kluczniok D, Boedeker K, Fuchs A, Hindi AC, Fydrich T, Fuehrer D, et al. Emotional availability in mother-child interaction: The effects of maternal depression in remission and additional history of childhood abuse. *Depression and anxiety* 2016; 33:648-57.
- 22) Easterbrooks MA, Biesecker G, Lyons-Ruth K. Infancy predictors of emotional availability in middle childhood: The roles of attachment security and maternal depressive symptomatology. *Attachment and Human Development* 2000; 2:170-187.
- 23) Espinet SD, Jeong JJ, Motz M, Racine N, Major D, Pepler D. Multimodal assessment of the mother-child relationship in a substance-exposed sample: Divergent associations with the emotional availability scales. *Infant Mental Health Journal* 2013; 34(6):496-507.

- 24) Sutherland KE, Altenhofen S, Biringen Z. Emotional availability during mother–child interactions in divorcing and intact married families. *Divorce Remarriage* 2012; 53:126-141.
- 25) McConnell M, Closson L, Morse B, Wurster H, Flykt M, Sarche M, et al. The “EA brief”: A single session of parent feedback and coaching to improve emotional attachment and emotional availability (EA). *Infant Mental Health Journal* 2020;1-10.
- 26) McCarthy P, Walls T, Cicchetti D, Mayes L, Rizzo J, Lopez-Benitez J, et al. Prediction of resource use during acute pediatric illnesses. *Archives of Pediatric Adolescent Medicine* 2003; 157:990-6.

## 9. 図表

**Table 1. EAS による Clinical Screener**

|   |
|---|
| 91－100: High emotional response to each other   |
| 81－90: Moderate emotional responsiveness  |
| .....   |
| 71－80: Complex emotional responsiveness<br>(differences in EA levels between adults and children) |
| 61－70: Complex emotional responsiveness (a fake relationship)                                     |
| .....   |
| 41－60: Areas of indifference  |
| 11－40: Areas with obvious problems  |



**Table 2. 対象者の概要**

| ID | Mother's age | Family form     | Number of children | Birth order | Child age | Gender of the child |
|----|--------------|-----------------|--------------------|-------------|-----------|---------------------|
| 1  | 36           | Nuclear Family  | 1                  | 1           | 5M        | male                |
| 2  | 36           | Nuclear Family  | 1                  | 1           | 4M        | female              |
| 3  | 31           | Nuclear Family  | 1                  | 1           | 1Y5M      | male                |
| 4  | 28           | Nuclear Family  | 1                  | 1           | 1Y4M      | female              |
| 5  | 34           | Nuclear Family  | 2                  | 2           | 5M        | male                |
| 6  | 27           | Nuclear Family  | 2                  | 2           | 6M        | male                |
| 7  | 36           | Extended family | 1                  | 1           | 5M        | female              |
| 8  | 39           | Nuclear Family  | 3                  | 3           | 5M        | male                |
| 9  | 28           | Nuclear Family  | 2                  | 2           | 10M       | male                |
| 10 | 31           | Nuclear Family  | 2                  | 2           | 5M        | male                |
| 11 | 31           | Nuclear Family  | 2                  | 2           | 6M        | male                |
| 12 | 28           | Nuclear Family  | 2                  | 2           | 4M        | female              |
| 13 | 38           | Nuclear Family  | 3                  | 3           | 1Y1M      | female              |
| 14 | 39           | Nuclear Family  | 1                  | 1           | 5M        | female              |
| 15 | 35           | Nuclear Family  | 2                  | 2           | 4M        | male                |
| 16 | 37           | Nuclear Family  | 1                  | 1           | 1Y5M      | male                |

**Table 3. 対象者が語った内容の KJ 法による分類**

| ID      | stable parenting | ambivalent parenting | unstable parenting | comprehensive categories    |
|---------|------------------|----------------------|--------------------|-----------------------------|
| CASE 1  | ◎                | ○                    |                    | <b>stable parenting</b>     |
| CASE 2  | ◎                | ○                    |                    | <b>stable parenting</b>     |
| CASE 3  | ○                | ◎                    |                    | <b>ambivalent parenting</b> |
| CASE 4  |                  | ◎                    | ○                  | <b>ambivalent parenting</b> |
| CASE 5  | ◎                |                      |                    | <b>stable parenting</b>     |
| CASE 6  |                  |                      | ◎                  | <b>unstable parenting</b>   |
| CASE 7  |                  | ○                    | ◎                  | <b>unstable parenting</b>   |
| CASE 8  |                  | ○                    | ◎                  | <b>unstable parenting</b>   |
| CASE 9  | ◎                | ○                    |                    | <b>stable parenting</b>     |
| CASE 10 |                  |                      | ◎                  | <b>unstable parenting</b>   |
| CASE 11 |                  | ○                    | ◎                  | <b>unstable parenting</b>   |
| CASE 12 | ◎                |                      |                    | <b>stable parenting</b>     |
| CASE 13 |                  | ◎                    |                    | <b>ambivalent parenting</b> |
| CASE 14 |                  |                      | ◎                  | <b>unstable parenting</b>   |
| CASE 15 |                  | ◎                    | ○                  | <b>ambivalent parenting</b> |
| CASE 16 |                  | ○                    | ◎                  | <b>unstable parenting</b>   |

◎ Central to the narrative.

○ Included in the narrative.



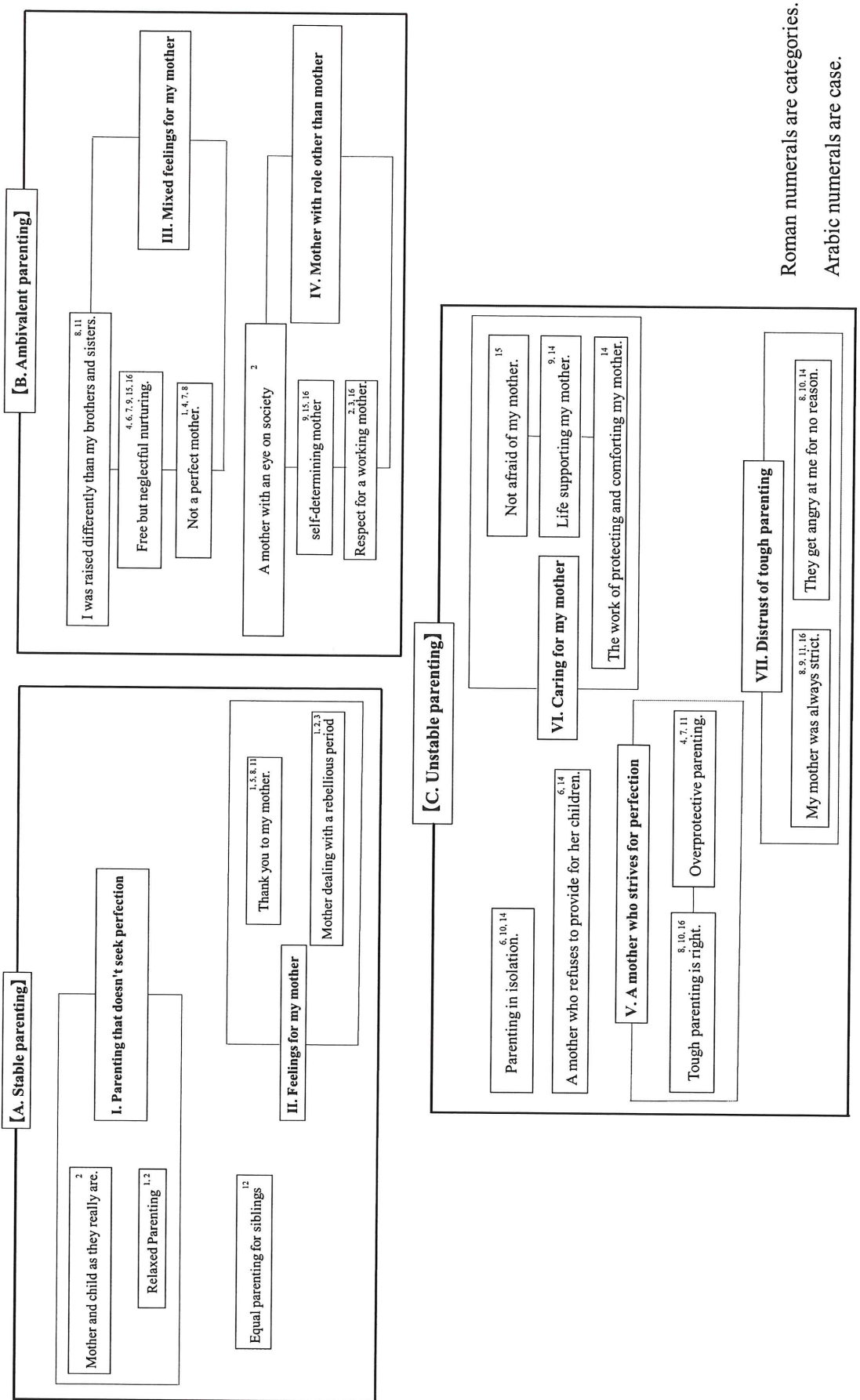
**Table 4. 母親の被養育体験と EAS の関連性**

| Demographics     |    |              |  |                      |    |              |    |                    |    | Total ( <i>n</i> = 16) |    |
|------------------|----|--------------|--|----------------------|----|--------------|----|--------------------|----|------------------------|----|
| Stable parenting |    |              |  | Ambivalent parenting |    |              |    | Unstable parenting |    |                        |    |
| high EA          |    | medium EA    |  | high EA              |    | medium EA    |    | high EA            |    | medium EA              |    |
| <i>n</i> = 5     |    | <i>n</i> = 0 |  | <i>n</i> = 3         |    | <i>n</i> = 1 |    | <i>n</i> = 3       |    | <i>n</i> = 4           |    |
| C1               | 98 |              |  | C3                   | 96 | C4           | 78 | C8                 | 95 | C11                    | 80 |
| C5               | 98 |              |  | C13                  | 92 |              |    | C14                | 95 | C6                     | 65 |
| C12              | 92 |              |  | C15                  | 93 |              |    | C10                | 93 | C16                    | 60 |
| C9               | 92 |              |  |                      |    |              |    |                    |    | C7                     | 62 |
| C2               | 92 |              |  |                      |    |              |    |                    |    |                        |    |

Table 5. 母親の被養育体験と EAS

| Demographics                  |          |                      |          |                    |          |           | Total ( <i>n</i> =16) |          |
|-------------------------------|----------|----------------------|----------|--------------------|----------|-----------|-----------------------|----------|
| Mother's parenting experience |          |                      |          |                    |          |           |                       |          |
| Stable parenting              |          | Ambivalent parenting |          | Unstable parenting |          |           |                       |          |
| <i>(n</i> =5)                 |          | <i>(n</i> =4)        |          | <i>(n</i> =7)      |          |           |                       |          |
|                               | <i>M</i> | <i>SD</i>            | <i>M</i> | <i>SD</i>          | <i>M</i> | <i>SD</i> | <i>F</i> (2,13)       | <i>p</i> |
| EAS                           | 94.4     | 3.28                 | 89.7     | 8.01               | 78.5     | 16.09     | 2.883                 | 0.092    |

Figure 1. KJ 法による被養育体験に関するインタビュー内容の統合



Roman numerals are categories.  
Arabic numerals are case.